

ひっ迫する関電の使用済燃料貯蔵プール あと4~6年で満杯

● 満杯が目前に迫る関電原発の使用済燃料プール

2023年10月末時点での関西電力の原発使用済燃料の貯蔵状況は右表のようになる。

高浜1号が7月に、高浜2号が9月に相次いで再稼働し、合計104体の使用済燃料が新たに発生した。高浜原発全体では、あと約4年で使用済燃料プールが満杯となる。また高浜3号が9月から定検中であり、この定検で発生する使用済燃料を加えると、残り年数は4年を切る。美浜原発と大飯原発も5~6年程度で満杯となる。

関西電力の原発の使用済核燃料貯蔵状況 (燃料集合体数 2023年10月25日)

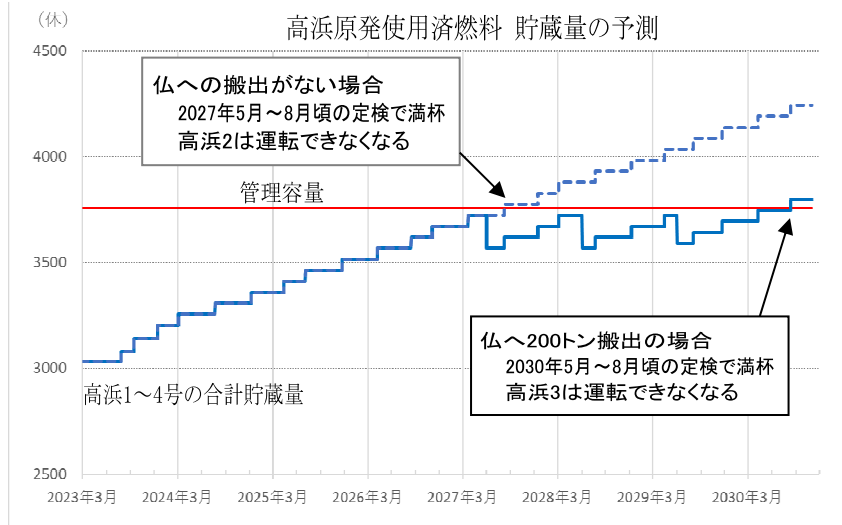
原発	貯蔵量	管理容量	空き	1取替	残り回数	残り年数
美浜3号	432	652	220	52	4.2	5.6
大飯3号	1,658	1,936	278	64	4.3	5.8
大飯4号	1,741	1,936	195	64	3.0	4.1
(大飯3,4合計)	3,399	3,872	473	128	3.7	4.9
高浜1号	162	267	105	52	2.0	2.7
高浜2号	118	267	149	52	2.9	3.8
高浜3号	1,345	1,612	267	52	5.1	6.8
高浜4号	1,514	1,612	98	52	1.9	2.5
(高浜合計)	3,139	3,758	619	208	3.0	4.0

- ・ 関西電力の資料を基に作成
- ・ 「管理容量」は、貯蔵容量から1炉心分のスペースを引いたもの。
- ・ 13か月連続運転毎に約3か月の定検が行われ、1/3炉心分の燃料が新しい燃料に交換される(「1取替」)ものとして、満杯までの「残り回数」、「残り年数」を計算した。廃止された原発のプールの使用は想定していない。

● フランスへの搬出では、わずかに先延ばしするだけ

関電は10月10日に、「使用済燃料対策ロードマップ」を公表した。再処理工場は来年竣工の見込みはなく、フランスへの搬出が実現するかどうかだ。

高浜原発の200トンの使用済燃料を仏のオラノ社に搬出する計画にしている。2027年度から2029年度の3年間で70t、70t、60tの搬出を予定している。しかし仏への搬出は、高浜のプール満杯を、2030年度頃まで引き延ばすだけだ。



- ・ 高浜1~4号のプールは共用化されているので合計の貯蔵量の推移のみ示した。
- ・ 1号は2024年4月、2号は9月に次の定検を予定。その後および他の原発は、13か月連続運転後に約3か月の定検で1/3炉心分の使用済燃料が発生すると想定。
- ・ 仏への搬出は2027~2029年度にかけて70t、70t、60tが各々6月に実施と想定。

● 原発敷地内での乾式貯蔵を検討する関電

関電は、プールが満杯になり原発が運転停止に追い込まれることを避けるため、原発敷地内での乾式貯蔵を検討すると表明した。しかし、2030年頃に操業開始とする中間貯蔵施設の見込みはない。乾式貯蔵からの搬出先はなく、原発敷地内で永久に保管される可能性が高い。乾式貯蔵にも反対し、原発の運転を止めていこう。